

2022年7月27日

立教大学国際学術研究交流制度  
2022年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	河野 哲也
受入学部・研究科・研究所		文学研究科
招へい 研究員	所属・職	Teaching Fellow, Université Paris 1 Panthéon-Sorbonne 所属機関所在国：フランス
	氏名	Raphaël Pierres
招へい期間		2022年6月6日～2022年7月6日(31日間)
研究経費		826,440円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○ついて研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2022年6月6日	来日
2022年6月11日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にて講演会「There is no cartesian subject: genealogy of the problem of interiority」10名参加。
2022年6月12-15日	京都大学にて日本における環境性についての研究討議
2022年6月16日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にて講演会「Criticisms of interiority: towards a grammar of intentionality」6名参加。
2022年6月18日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にてワークショップ「Phenomenology of life and feeling (Barbaras)」7名参加。
2022年6月19-22日	南山大学にて日本における身体性についての研究討議
2022年6月23日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にて講演会「The embodied cognition and its limits」8名参加。
2022年6月25日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にてワークショップ「Critique of intentionality and contextual realism (Benoist)」8名参加。

2022年6月26日 -7月1日	北海道大学にて日仏哲学における身体性の差異についての研究討議
2022年7月2日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にて講演会「Tools to build a trans-cultural History of Philosophy」9名参加。
2022年7月4日	立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）にてワークショップ「Towards a life-world realism (Romano)」7名参加。
2022年7月6日	離日

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回の招へいに際して3回連続の講演会、3回連続のワークショップ、総合的講演会の合計7回のワークショップ・講演会を行った。人数は各回10名以下ではあったものの、継続的な参加者が多く、小規模ながらも密なコミュニケーションをとることができた。行った講演会およびワークショップの詳細は、以下の通りである。

#### 連続講演会

##### 1.講演会「There is no cartesian subject: genealogy of the problem of interiority」

2022年6月11日 16:00-18:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

ウィトゲンシュタインによるデカルト批判を検討しながら、しばしばデカルトに帰される近代的「主体」概念の発明者という認識は不正確であり、むしろデカルトが論じた内面性について深く考察しなおす必要があるということを発表し、デカルトとウィトゲンシュタインの対比などについて、本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者とのあいだで活発な議論がなされた。

##### 2.講演会「Criticisms of interiority: towards a grammar of intentionality」

2022年6月16日 18:00-20:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

フッサールが提唱した現象学という枠組みからデカルトに対する批判を検討することで、現象学はデカルトが論じた内面性の問題を越えて、身体を媒介にした内と外の関係について考察を展開しているということを発表し、現象学における身体と意識・志向性について、幅広い話題に関する議論が本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者との間で展開された。

##### 3.講演会「The embodied cognition and its limits」

2022年6月23日 18:00-20:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

内面性の問題について、メルロ＝ポンティによる知覚の哲学、ギブソンによる生態心理学などより現代的な観点から、身体を媒介にしつつ内面性の問題について考察し、この問題を考えるうえで、「としてみること (seeing as)」、さらには、そのように「としてみる」身体に関する環境（風土）の影響についての発表がなされた。メルロ＝ポンティをはじめとして知覚と身体に関する哲学・心理学的な議論が本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者との間で展開された。

#### 連続ワークショップ

##### 1.ワークショップ「Phenomenology of life and feeling (Barbaras)」

2022年6月18日 16:00-18:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

現代フランス哲学に関するワークショップとして、Renaud Barbaras の哲学における言語・感情・現象学に関する紹介、ならびに Barbaras に関する議論を含めテキストの解釈方法などについても本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者に教授していただき、内容面のみならず研究方法についても活発な議論がなされた。

## 2. ワークショップ「Critique of intentionality and contextual realism (Benoist)」

2022年6月25日 16:00-18:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

現代フランス哲学に関するワークショップとして、Jocelyn Benoist の哲学における知覚に先立つものとしての感覚に関する議論、特に、騒音に関する議論の紹介、ならびに Benoist のテキストの解釈についての提示などを本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者に教授していただき、現代フランスにおける知覚の議論ならびにその解釈について活発な議論がなされた。

## 3. ワークショップ「Towards a life-world realism (Romano)」

2022年7月4日・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

現代フランスの哲学者 Claude Romano のテキストに関する解釈を中心にしながら、ハイデガー的な世界内部的事実、さらには生活世界の実在性に関する発表がなされ、本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者は最新のフランス哲学における解釈をふまえた上で、これまでの内面性や知覚、現象学といった広範囲にわたる話題との関りについて議論がなされた。

## 総合的講演会

### 1. 講演会「Tools to build a trans-cultural History of Philosophy」

2022年7月2日 16:00-18:00・立教大学（池袋・1203教室・ハイブリッド）

哲学の「トランス・カルチャー」というテーマについて、その後につまづいた誤解についての講演がなされたうえで、哲学が持つトランス・カルチュラルな道具としての側面について注目し、その事例として日本、特に明治期における哲学の需要、さらにはその背景および展開について発表された。道具としての哲学という点に関して本学の院生・兼任講師だけでなく他大学の院生を含む参加者とのあいだで活発な議論がなされた。

以上、合計7回のワークショップ・講演会では、参加者が少ないことの強みを活かした密なコミュニケーションに基づく議論が交わされたうえ、現代フランス哲学に関するワークショップなどでは本学の院生のみならず他大学の院生も継続的に参加しており、教育的効果もあったと考えられる。

また、今回のワークショップ・講演会はうまくいかなかった会もあったものの、コロナ対策としてすべてハイブリッド形式で行われたということもあり、遠隔での議論の方法についても共有できた。この経験ならびに密なコミュニケーションの形成に基づき、今後継続的に共同研究を行う予定があり、現在のところ zoom を用いて、今回の一連のワークショップ・講演会の振り返りを企画中である。

（特記事項）

なし